

競技用モーターボートの環境対策について

【提案先】国土交通省

1. 提案項目

(1) 競技用モーターボートエンジンの環境対応に向けた強力な指導

- ボートレース用の4サイクルエンジンや電動モーターといった環境対応型エンジン等の開発促進
- 全国のボートレース場の理解と協力の下、環境対応型エンジン等を一斉導入
- カーボンニュートラルに対応した燃料の使用促進

(2) 環境対応型エンジン等の導入に向けた環境整備に対する指導

- モーターボート競走関係団体が行う、選手に対する環境対応型エンジン等の構造や整備に関する教育等の実施に向けての指導
- 全国のボートレース場への環境対応型エンジン等の導入に向けての指導

2. 提案の理由

- 国や県において、2050年までにCO₂排出量を実質ゼロにすべく取組を進めている。
- 琵琶湖におけるプレジャーボート（小型船舶）の利用について、「琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」に基づき、従来型2サイクルエンジンの使用を禁止している。
- 競技用モーターボートは、条例による規制の対象外だが、県営のびわこボートレース場において、従来型2サイクルエンジンを使用していることに対して厳しい意見もある。
- ボートレース業界においては、すでに競技用4サイクルエンジンの開発が進められたが、現時点では実用化に至っていない。また、昨年には、脱炭素社会に対応したモーターへの移行を目指す方針を示されたが、具体的な見通しは示されていない。
- カーレース業界では、一部でカーボンニュートラルに対応した燃料の使用を決定されるなど、脱炭素社会への対応が進んでいる。
- 琵琶湖の環境保全の観点からも、環境対応型エンジン等の早期導入の対策が必要である。

(本県の取組状況と課題)

琵琶湖のレジャー活動に伴う環境への負荷の低減

取組状況

- 「琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」の制定(H14)
 - ・航行規制水域の指定 → 生活環境、自然環境の保全
 - ・従来型2サイクルエンジンの使用禁止
 - 排出ガスによる水質への負荷の低減
- 競技用4サイクルエンジンの実用化研究の要望(H15)
 - ・競技適合性を有した環境配慮型競技用エンジンの開発(H19)
- 「琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」の一部改正(H23.3)
 - ・従来型2サイクルエンジンの使用完全禁止(特例措置終了)、罰則化
- 適合証の表示義務化(H24.10)
 - ・県が交付する、適合原動機搭載艇であることを示す適合証を貼付しないプレジャーボートの使用禁止
- 「”しがCO2 ネットゼロ”ムーブメント」キックオフ宣言(R2.1.6)
 - ・2050年にCO2排出量を実質ゼロにすることを目指し、取組開始

競技用ボートが2サイクルエンジン規制の対象外であることへの批判があることを踏まえ、びわこボートレース場における環境対応型エンジン等の導入に向けた検討を開始

びわこボートレース場単独導入の課題

- ・環境対応型エンジン等の構造や整備について、選手に対する教育が必要となる。
- ・単独で他場と異なるエンジン等を導入すると、出場拒否が想定される他、余計なコストがかかる。

提 案

◆ 競技用モーターボートエンジンの環境対応に向けた強力な指導

担当：琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課琵琶湖レジャー対策係
TEL 077-528-3485